



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K、サブ
 1991~1992年度 R I 会長

会員増強拡大月間

1991. 8. 2 金第185回例会
1. 点 鐘
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「高めよロータリー」
4. 「四つのテスト唱和」
5. 食 事
6. 会長の時間
7. 幹事報告
8. 各委員会報告
9. 卓 話
10. 点 鐘

第184回例会記録 (平成3. 7. 26)

会長の時間 演 田 松太郎

●皆さん今晚は、7月26日第184回例会は、本年度初めての夜間例会です。100%の出席をいただき感謝しております。

ご案内しておきましたように、例会終了後に前年度佐野会長・神宮寺副会長ほか役員・理事の方の慰労と、7月新入会員池田英治君及び8月新入会子定の岩切高繼君の歓迎を兼ねて懇親会を催しますので、よろしく願いいたします。

前年度の役員・理事の皆様にはこの1年間、コスタ R I 会長の「ロータリーを高めよ、思いを尽くし、熱意を尽くし」のテーマのもと、佐土原 R C の充実発展のため献身的にご尽力いただき、私共会員をご指導賜りましたことを心からお礼申し上げます。

なお、懇親会の開催につきまして、ホテル神

宮寺のスタッフご一同様の並々なぬお骨折りに厚くお礼を申し上げる次第です。

●1990~1991年度の無欠席会員の中に、再調査の結果「正岡文郁君」(1ヶ年)が漏れていることが判明しましたので、お詫びして追加訂正させていただきます。

●第3回理事会を先週の例会終了開きましたが、席上ある方の会員推薦があり、入会を可決していただいたので、直ちに佐野前会長・鈴木幹事と共に勧誘に行きましたところ、残念ながら結実しませんでした。時間的に多忙とのことで。

●ロータリー財団セミナーが8月17日(土)ホテル神田橋で開催されます。国際奉仕委員長池田仁志君のご出席をお願いいたします。

●僕は昨年の本日早朝5時30分、日本一の高山富士山に登頂いたしました。その動機は、古希(70歳)を迎えた記念に何かに挑戦してみたかったことと、ロータリーの友1998年1月号の「山と人生」の随筆に魅せられたからでした。その一筋に、「山を愛し、自然を愛する清純な情熱と旺盛な気力を以てのぞむ山行は、心身を鍛える至高の恵みだ。しかも山は力強くあるいはまた優しく、登山者に大自然の営み、そのすばらしさを語りかけてやまない。」とありました。昔からの富士山のことについての諺に、「登らぬは馬鹿、二度登るも馬鹿」といわれているそうですが、そういうわけでもないのでしょうか富士山に登る人を見ていると何か一つのことを懸命に自分の仕事として遂行しているという感じに打たれます。

「頭を雲の上に出し、四方の山を見下して、
雷様を下に聞く、富士は日本一の山」

確か小学2年生頃に童謡で歌ったことを思い出します。正に富士山は日本一高い山で、その雄姿は日本を代表する山であります。

ちなみに僕が富士山から得た知識を少々申し上げますと、高さは海拔3,776m、現在の富士山は、約30万年前の噴火により造成され、コニーデ型といわれ円錐形をしているので、どこから見ても同じ形をしています。最近の噴火は宝永年間（1707年）で、現在まで284年経過しています。雲仙岳の噴火が約200年前にあったことを考えれば、何時富士山が爆発してもおかしくない、ともいわれています。

気圧は470HGで、83℃でお湯が沸くといわれます。登山時期は7月が最適です。頂上の温度は1～2℃ぐらいです。酸素がうすく、高山病にかかり易いので、事前に体力を鍛えておくことが大切です。

幹事報告 鈴木正敏
ガバナー月信No13をお配りしました。

出席報告 神宮寺利夫
会 員 数 17名
HC出席者数 17名
出 席 率 100名%

親睦委員会より 委員長 斉藤数馬
例会3年間無欠席者
*山脇 忍君・田村 勝二君・濱田松太郎君
例会1年間無欠席者
*佐野 保君・正岡 文郁君
以上の5名の会員の方に会長から記念のバッジを贈って表彰いたします。

前会長佐野 保君・前副会長神宮寺利夫君・前会計濱田松太郎君に対し、会長から感謝状を贈呈して、そのご功績を讃えます。

佐野前会長からの謝辞

1990～1991年度の役員理事として私共は微力ながら、「ロータリーを高めよ」の目標に向けてどうにか大過なく任期を終えることができました。

これも皆様方のご協力のおかげでありまして、心から感謝申し上げます。

7月早々から2名の会員増が実現し、新年度の門出を祝福しているようです。どうぞ、濱田新会長を中心に佐土原RCが一丸となって一層発展されるよう祈念いたします。

本夕はわざわざ私たちの懇労会を設けていただきましたことありがとうございます。

例会に引続いての懇親会は大変盛り上がり、午後10時、岩切正司会長エレクトの萬歳三唱でお開きとなりました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

●待望の会員増が現実のものとなり、すばらしいお二人の方をお迎えすることになりました。25名の目標が近づいてきております。全員でさらに頑張らしましょう。

●木をこよなく愛する人には、木の声が開えることがあるという。地球という母なる星に生を得た共存者として、樹木ほどの長命を誇る生物はほかにはちょっと見当たらない。

一般的にはブナが約300年、カラマツが約600年、ナラが2000年、わが動物たちとは桁違いの長命だ。

現存する木では、北米ホワイト山地のカリフォルニア側、標高3050mに生育するプリスルコーンマツが、すでに4600年の樹齢を持つことが確認されているという。

わが国では、有名な屋久島のスギ、なかでも「縄文杉」は推定樹齢7200年とする説もある。これら巨樹に訪れる日々が平和であるように願う。（文芸春秋7月号より）